

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会 長 中 田 貢 弘
編 集 広 報 部 会
発 行 日 2012年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5111



江北小2年 泉山蒼来 作

目 次

民生・児童委員の日 PR週間	2
こころの健康フェスティバル	3
地域福祉研究委員会	4
子 育 て 応 援 団	5
つながる社会をめざして	6
大 震 災 を 考 え る	7
千 手 の 絆	8
キャンドルナイト	



「どうもない」

福祉管理課長
川口 真澄

4月1日付けで福祉管理課長に就任しました川口真澄です。

私は、自分が育った「まち＝足立」が暮らしやすく住み心地の良いまちになってほしいとの思いで、これまで仕事を続けてまいりました。

10年位前の話です。「川口さん、今日息子のことを叱ったからね」と近所の民生委員さんが声をかけてくださいました。やんちゃ盛りの小学生の息子2人。きっと学校の帰り道に悪さをしたのでしょ。

足立区には、まだまだこんな人情味ある地縁が残っている地域です。微力ではございますが、地域福祉の向上に携わることができるのを嬉しく思います。

どうぞ、よろしくお願いします。

※「どうもない」は、両親の出身地福島の方言です。挨拶やお礼に使う言葉です。



お世話になりました

社会福祉協議会事務局長
中川 秋美

皆様からの温かいご指導を賜り、お陰様で充実した2年間でした。たくさん喜びと学びがありました。

福祉管理課長になったばかりの頃、「民生・児童委員 包容する笑顔」と題するあだち広報に目が釘付けになったことを覚えています。隣人愛の精神で、いい意味でのおせっかい焼き屋さんが足立区におられることを知りました。

これまで、行政にヒトとカネが十分にあれば、何でもやれる位に思っていたのですが、それは大きなまちがいでした。真似できないし、何よりそれでは区民の「幸せ度」は上がらないということが、よくわかりました。社会福祉協議会への異動です。これからもよろしくお願い申し上げます。

民生委員・児童委員活動 普及啓発パレード 5月13日

5月13日(日)晴天の中、東京都及び東京都民生児童委員連合会主催による民生委員・児童委員活動普及啓発パレードが行われました。



場所は新宿通り伊勢丹前よりアルタ前までです。総勢900名の参加者

の中、足立区からは約40名の委員が行進しました。

ほぼ30分の短い時間ではありましたが、マイクで「ますますワクワク明日のあだち」と紹介される中、沿道の方々に手を振りながら終了しました。

宮崎十三会長職務代理はパレード終了後、TOKYO MX テレビのインタビュー取材を受け、活動の重要性や必要性を端的に伝え、その様子は当日夕方6時のニュースで放映されました。

このパレードが、少しでも私たちの活動を理解していただける機会になればと心より思いました。

(4地区 江川明美 記)

足立区民生・児童委員の日 PR 週間 5月13日

5/13(日) イベント当日、庁舎アトリウムでは、10時に、子どもと大人による和太鼓でオープニング。

その後、近藤やよい区長を始め、来賓の皆様のご挨拶をいただきました。

アトリウム中央部では、私たち民生・児童委員のさまざまな活動を、パネル展示で紹介していました。一例として、花畑地区では、地縁の再構築を目的に中国帰国者との地域交流会を開催。世代、国籍、障がい・病気の有無にかかわらず、異なる国の人々がお互いの文化を認め合いながら、共に生きることができる地域づくりを目指しているそうです。また、10地区では、老人会、町会、地域包括支援センター、区民事務所などと協力して「梅田通りあった会」を設立した様子が紹介されていました。

地域と連携し見守り体制を強化して、孤独死や社会的孤立状態を未然

に防ぐため、地域ぐるみで「支え合いマップづくり」や「見守り・声かけ運動」などに取り組み始めています。

また、足立区と災害時における相互応援協定を結ぶ相馬市の特産品販売コーナーでは、長蛇の列のお客様でした。この日、アンケート回答者を含め、約1500名の来場者でした。

(6地区 森春枝 記)

優しく見守るパイプ役 ～民生・児童委員～



ミンジーが仲間入りしました! 贈呈式5月7日



足立区社会福祉協議会は、東京都民生・児童委員・主任児童委員のイメージキャラクター(ペンギン)であるミンジーの着ぐるみの寄付を受けました。

寄付をされたのは、区内で着ぐるみ製作を営むサンビコーポレーション(株)の井深ご夫妻です。

贈呈式には近藤やよい区長をはじめ、中田貢弘会長等の皆様が出席し、井深ご夫妻へ感謝の気持ちを伝えました。足立区にかわいい仲間としてミンジーが加わったことで、民生・児童委員はますます活躍できそうです。

(福祉管理課 記)

会長協議会 静岡県三島市視察研修 5月27日

5月27日は晴天にも恵まれ、三島市役所を視察訪問して各々の協議会の活動について意見交換を行いました。冒頭に三島市の渡辺会長と足立区の中田会長から挨拶があり、三島市の事務局から三島市についての説明がありました。

三島市の災害時要援護者支援体制については、コミュニティ福祉(何

らかの福祉援助が必要な住民を排除することなく包み込むことができるような地域社会)の推進に向け、「地域における向こう三軒両隣の絆づくり」を当面の目標としているそうです。足立区でも今後の活動に大いに参考となり、有意義な研修でした。

(常東地区 宮本勝男 記)



こころの健康フェスティバル 3月3日

3月3日ひな祭りの日「第16回こころの健康フェスティバル」が開催され、天候にも恵まれ大勢のお客様に来ていただきました。

11時45分からバザーが開始され、各地区の民生委員の方々が、各金額別コース、お花のコーナーに分かれ、多数集められた品物を一人一人が元気な声で力を合わせて販売いたしました。今年度の売上金は572,308円で、全額を足立区社会福祉協議会へ寄付させていただきました。

庁舎ホールでの開会式は榎本安行実行委員長、近藤やよい区長、吉岡茂区議会議長（3/3当時）の各氏からのご挨拶がありました。続いて足立区立第十一中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏がありました。

午後からは、「日常生活におけるこころの健康～こころのサインを見逃さないために～」と題し、すずき病院理事長の坂本博子先生による講演が行われまし

た。

- ① こころの健康とは
- ② ストレスとは
- ③ 心の変調に早く気付こう！
- ④ ストレス対処法
- ⑤ 以前と違う様子が続いたら

のテーマに添ってお話がありました。一人で悩まず身近な人に話したり、または、相談機関の医師に相談したり、自分の対処法を身につけることなど、こころの健康についてわかりやすく説明してくださいました。気持ちの和らいだ講演でした。

（3地区 池田信江 14地区 阿部美代子 記）



受賞者祝賀会 2月9日

2月9日、足立区民生・児童委員協議会主催の各種表彰受賞者祝賀会が行われました。中田連合会長より挨拶があり、近藤区長、たきがみ区議会議長（2/9当時）、大谷都民連副会長の各氏からのご祝辞をいただきました。

※受賞者名簿は、さくら28号で掲載済

今回は個人受賞の他に、「足立区民生・児童委員協議会 こころの健康フェスティバル実行委員会」が、東京都社会福祉協議会会長感謝状を頂戴いたしました。毎年3月上旬開催の「こころの健康フェスティバル」は、足立区が主催する一大イベントです。「こころの病を持つ区民の方々が、いきいきと暮らすため、隣人である地域住民の方々に、こころの病を理解して

こころの健康フェスティバル実行委員会 受賞

いただきたい」との目的で始まりました。この趣旨に賛同して、当協議会は後援団体の1つとして、毎年「バザー」を開催して支援をしてきました。長年にわたる各地区委員一人ひとりの協力と、組織全体の団結によって成し得た受賞であったと思います。

（広報部 記）



さくらニュース 物作りフェスタ 東京電機大学千住アネックス

雲ひとつない青空、山茶花の垣根も見頃の12月10日、東京電機大学千住アネックスで「物作り教室」が千寿常東小学校3・4年生の希望者を対象として行われました。いつもの講義より少々緊張気味の中村教授



のスライド解説の後、ゼミの学生が先生役になり、ミニ四駆の組み立てに取りかかりました。トイレに行くのも忘れ集中すること2時間、それぞれの愛車が完成しました。指導す

る学生の進め方もいろいろです。気がつくと近くの大人まで参加し、3分の1を占める女子もなかなかの出来栄です。近藤区長も見守る中、いよいよレーススタート！ 部屋は一瞬にして興奮のるつぼ、上気した顔が一点を見つめます。エンジン全開！ 1位から3位までが決定し、夢心地の3時間のプログラムが終了しました。

路地裏でワイワイしていた昔と違って、ちんまりと遊ぶことの多い近頃の子供達。「幼い頃、ゴミ収集車とバキュームカーとドラえもんに夢中になっていた」という先生のお話も誰かの心にそっと刻まれたかもしれません。子どもに出会いと経験を！ 素敵な時間でした。

（竹の塚地区 小島千恵子 記）

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

社会福祉協議会

概要と成り立ち

社会福祉協議会（以下「社協」）は、全国・都道府県・区市町村単位に設置され、住民主体の地域福祉推進を目指し活動している民間団体です。社会福祉法の第109条に基づいて、各地で様々な福祉活動を展開しています。近年では、少子高齢化の進展や一人暮らし世帯の増加などに伴い「地域福祉活動推進」と「権利擁護事業」に期待と需要が増してきています。



そんな社協の成り立ちは、昭和26年1月に遡ります。この年に、日本社会事業協会、同胞援護会、全国民生委員連盟を主要な構成団体とする中央社会福祉協議会（現在の全社協）が設立、その後、各地で社協が次々設立していきました。昭和27年には、全国民生委員大会で世帯更生運動が提

唱され、昭和30年には世帯更生資金貸付制度（現在の生活福祉資金貸付制度）の誕生に、社協が窓口を担うことになりました。

ちなみに足立社協の法人設立趣意書には、「足立区社会福祉協議会は、昭和30年3月、任意団体として発足して以来（中略）地域福祉の増進を図る目的のもとに区内の民生委員、地域団体及び社会福祉事業に理解のある区民を結集し（以下省略）」との記述があります。

あれから57年…、足立社協は、生みの親でもある民生・児童委員協議会より理事7名（全15名）、評議員18名（全40名）の参画をいただき、設立から続く強いパイプに支えられながら法人運営を行っています。これからも「社協」をよろしくお願いします。

（社会福祉協議会 和田忍 記）

区社協 地域福祉研究委員会とは

社会福祉協議会の中に平成23年2月、地域福祉研究委員会が発足。そこに、各地区から民生・児童委員が選任され、今後の活動に期待が寄せられています。

社会福祉協議会と民生・児童委員のつながりは深く、昭和30年の足立区社会福祉協議会の団体設立には、民生・児童委員の活動が大きく貢献しました。設立以降も民生・児童委員は社会福祉協議会の中核として、一人ひとりの地道な活動が、現在に至るまで、大きな役割を果たしてきました。

地域福祉研究委員会は、3年をかけて地域力向上の研究を進めていきます。委員会で取り上げていく検討課題の候補として、孤立問題を主な要因とする孤独死・自殺問題・ひきこもりがあります。他にも、世代間交流、地域コミュニティの再構築、住民活動、企業との連携、防犯対策、プライバシー問題等を考えることが、地域力向上に繋がります。

1年目のテーマは「地域課題の確認と取り組み事例

の研究」です。主な活動内容は、2カ月に1度開かれる委員会で、共通認識形成のための学習や意見交換を通じ、今後の足立区の課題と対策を明確化していく作業を進めています。

また、この委員会では、無縁社会といわれる世の中において「お互い様、おかげ様」の心を持って、ゆるやかなつながり、さりげないつながりを強化し、孤立をなくす方法を考え、これからの地域づくりの発信を目指しています。

（花畑地区 千葉祐子 記）



本木小4年 山川葵緒 作

地域福祉研究委員会 活動報告



当委員会は5/12～5/18開催の「民生・児童委員の日 PR週間」実行委員会も兼任しております。PR週間の期間中は、多くの皆様にご来場・ご協力をいただき、この場をお借りして感謝を申し上げます。

委員会が立ち上がって、早1年半が経ちます。これまでに数回の学習を重ねて、地域の問題についての議論を深めました。

NHKの「無縁社会」、朝日新聞の「孤族」などニュースでもよく耳にする「孤立問題」について、その恐ろしさと予防について議論を交わしました。また、「孤独死」についての定義などを学習し、自ら閉じこもっている人の孤独死をどう防ぐかが課題だという確認もしました。

「自殺問題」は、毎年3万人を超える日本において、民生・児童委員として求められる事とできる事との相違と実状についての意見交換を行いました。

また、「ひきこもり」については、経験した事例について情報交換をし、関わりを共有しました。

今年度は「災害と地域のつながり」と「地域防犯力」の2回の学習と意見交換を行いました。さらに、来年度は地域課題への効果的な対応方法の研究を行っていく予定です。

最終的には、民生・児童委員として具体的な対策を結論づけていきたいと考えています。

（地域福祉研究委員会 委員長 兼務
「民生・児童委員の日 PR週間」実行委員会 委員長
小金井堅治 記）

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

子育て応援団

こども家庭支援センター ほっとほーむ事業 その2

27号の「さくら」で、こども家庭支援センターのほっとほーむ事業をご紹介しました。ほっとほーむ事業では養育困難や虐待の要支援家庭を対象に、それぞれの家庭に見合った食事支援、家の中の整理整頓、通園や登校などの寄り添い、子どもの遊びや学習支援などを行っています。

例えば協力家庭 A さんは、長年地域で子どもや高齢者福祉に関わるボランティア活動をしてきた方です。幼児がいて、家中に物が散乱し、片付けが出来ない母親と一緒に、繰り返し部屋の片付けをやってくださっています。一緒に片付けることで、方法を示し、整理整頓すれば気持ちが良いということを、母親にも子

どもにも示すことがねらいです。親が獲得できなかった生活力を A さんが育て直してくださっているといっても過言ではありません。

今では、母親は A さんに生活上の困ったことや子育ての相談にのってもらっています。様々な事情で子育てがうまくいかない親、適切な環境で養育されていない子どもを地域内で孤立させないように、地域の子育ての絆が地道に広がっています。養育困難の連鎖を断ち、子どもが前向きに生きる力を少しでも獲得できるよう、「ほっとな絆」をつなぎましょう。

(足立区こども家庭支援センター 記)

ご存知ですか？

区立保育園の民営化について (その3)

公立保育園民営化の最終回です。今回は民営化による保育サービスの充実について、2つの具体的内容をご説明します。

まず、延長保育です。公私立の保育園は、11時間開所（午前7時30分から午後6時30分）が基本となっています。しかし、仕事の都合でこの時間帯では送り迎えが間に合わない保護者の方もいます。

公立保育園では、数園で午後7時30分までの延長保育を実施していますが、民営化にあたっては、朝30分と夕2時間の延長保育の実施を条件としています。民営化された園は午前7時から午後8時30分までの時間帯で保育を実施することになります。就労条件や延長保育料などの条件はありますが、保護者の方は、就労状況に応じて子どもを預けることができるようになります。また、この延長保育は、例えば急な残業などでお迎えが遅くなってしまうような場合

も、日単位で利用することも可能です。

次は、年末保育の実施です。年末に仕事をせざるを得ない保護者のため、民営化にあたっては、12月29日、30日の年末保育を実施してもらうようにしています。公立園の2園でも年末保育を実施していますが、実施園を増やすことで、年末保育園への要望に応えることにしています。また、年末保育は、普段保育園にお子さんを預けていない保護者の方も、就労の条件を満たせば、近くの年末保育実施園に子どもを預けることができます。

このように、区では保育サービスの充実も視野に入れて、公立保育園の民営化を進めています。

(足立区保育課長 記)



足立区の就労支援 その3 若年者

今回は、若年就労支援の最前線で区とNPOが一緒に取り組んでいる若者サポートステーション取材しました。

通称サポステは東京芸術センターの8階にあり、廊下をはさんで隣がハローワークになっています。社会参加するのが難しい若者をスムーズに社会参加・経済的自立につなげていくのが主な役割です。区からの委託でNPO法人青少年自立援助センターが運営しています。

以前の施設見学で福生市にある本部を訪れた折、理事長の「子ども達はかわいいよ。必死に生きている。誰のためでもない自分の人生を生き

ていかなきゃね。」という言葉が印象に残りました。足立でもスタッフが一人ひとりの若者に柔らかい笑顔で対応しており、温かい雰囲気でした。

担当の小塚就労支援課長のお話では、全国に110箇所あるサポステの中でも、就労に結びついていく実績が高く、視察も多いそうです。セミナーはほぼ連日、相談日も週5回行われ、例えば「あだち仕事道場」～訓練就労サポーター制度～では、実際の職場に担当のスタッフとチームで入り、指導・監督はそのスタッフが行います。安心感・連帯感を得ながら本人にも自信がついていきます。

「何をどうやればいいの？」不安で揺れ動く若者を細やかな対応で、ひと手間ふた手間かけて社会へとつなげ、送り出していく根気のいる仕事です。

熱き想いと地道な努力に裏打ちされたこの活動を多くの方に是非ご活用いただきたい、とのことでした。
(19地区 栗原和子 竹の塚地区 小島千恵子 記)



新田学園小学部4年 江口未華 作

つながる社会をめざして（無縁世界からの脱出）第5回 成年後見人の活動 パート2

今回は、具体例を紹介したいと思います。

独居の70歳代の女性。認知症があり、ほとんどベッドの上で暮らし、介護サービスと訪問診療を週に1回受けながら、在宅で生活されていました。収入は、無年金であるため夫の死亡保険金だけでした。兄弟は健在ながら全く交流は無く、死んでも連絡はいらなとのことで、後見の申し立ては区長が行いました。

人との交流を望まず毎日部屋に閉じこもり、ヘルパーさんとだけ会話するという生活でした。施設入所も検討しましたが、ご本人が今の生活を続けたいとの意向が強く、家で生活していました。ある日ヘルパーさんが訪問すると名前を呼んでも反応がまったく無く、救急車を呼び入院となりました。病院には、ヘルパーさんの会社の方が付き添ってくださっていたのですが、後見人に連絡が入り、直ぐに病院に来てほしいとの依頼がありました。

主治医から病状の説明があり、今後の治療についての意見を求められましたが、後見人には医療の同意権

が無いことを説明しました。しかし、誰もキーパーソンがいないためなんとか方針を出すように求められました。ご本人は以前から「長く生きたくはない…」と話されていたので、ご本人から聞いた意向については伝えました。一時危ないと言われた時期もありましたが、病状は安定し、現在は介護療養病院で療養をされています。

今後も家での生活は望めないため、病院での療養が続きますが、定期的に訪問し状態を確認しつつ、必要な手続き等を行っています。しかし、急変したときの対応や死後についての対応もご家族の協力が無いため、今から対応について検討が求められます。

病院から連絡がはいるたび“どきっ”とすることの繰り返しですが、後見人として、その方に最後まで寄り添うことが求められるとの思いで活動しています。

（足立区地域包括支援センターあだち有坂フミ子所長 記）

足立の配食サービス

「あだち配食サービス」をご存知でしょうか？ 高齢サービス課在宅支援係の行っている事業で、買い物や調理することの困難な高齢者に、お弁当を宅配しています。20の協力店があり、安否確認を行って家族への連絡もとってくれます。

私の地域には、12年前からこのサービスを行っている「寿屋」さんがいます。ご主人のお話では、始めた当初は年間3、4名、お弁当に手をつけられておらず「おかしいな？」と感じて、ご家族に連絡をとるケースがありました。最近は、多方面から安否確認のケアがあつてずいぶんよくなったそうです。それでも、孤独死の現場に立ち会ったり、ベッドから落ちて動けなくなった方を助けたこともあるそうです。

料金は、一食500円～800円程、高齢者の負担する金額として、どう思われますか？ このようなサービスに対し、行政が補助している自治体もあるようです。協力店は、高齢化するこの地域を守る力としてどう対処していくべきか、何度も話し合いの場を持っています。利用を希望される方は、高齢サービス課在宅支援係（3880-5257）または、お近くの地域包括支援センターへ連絡してみてください。（9地区 秋本雅信 記）



西新井小2年 大関陽菜 作

がんばるおやじ達 その1 お父さんに育児の気づきを！ NPO法人ファザーリング・ジャパン

「笑っているお父さんを増やそう」という活動をしているNPO法人ファザーリング・ジャパンに属しています。2011年6月から7月に足立区男女参画プラザと協働し「あだちパパスクール」を実施。「子どもと楽しむ遊び」「仕事とパパ業」「パパ友ネットワーク作り」の3回連続講座を行いました。子育て中のお母



栗原小5年 中田祐太 作

さんは、孤立化・密室化した育児に陥っているのが現状です。たくさんの行政の支援はありますが、相談したい相手は「お父さん」です。お父さん自身の意識を、子育てに家庭に向かわせるこ

と、そして地域で子育て家族のお父さんを通したネットワークを作ることが、お母さんの育児ストレスを軽減し、子どもの心の健やかな育ちにもつながります。今こそ、お父さんの気づきが必要です。

ファザーリング・ジャパンは、パパが仕事も育児も楽しんで生きるノウハウを伝える「ファザーリング・スクール」や、産後8週間の育児休業取得を促進する「さんきゅーパパプロジェクト」、産後うつをママを支える「ペンギンパパプロジェクト」、おじいちゃんをもっと育児をしようという「イクジブプロジェクト」など、いろいろな角度からたくさんのプロジェクトを進めています。

また、各地の講演会やイベントで、現役パパたちが等身大で語ったり、子どもたちへ絵本の読み聞かせなどをすることで、笑っているお父さんのさまざまなモデルを見せようと、全国で元気に活動しています。

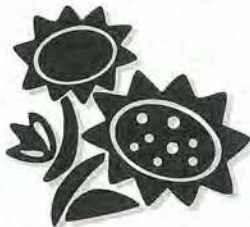
（足立区千住曙町 ファミリーサポート地域リーダー 高祖常子氏 記）

大震災を考える シリーズ2 足立区役所職員へのインタビュー 2011年11月2日(水)

被災地で区役所の職員が支援活動を行っているとの話を聞きましたので、総務課統計係の澤田係長と小泉さんにインタビューいたしました。

澤田係長のお話

当日の激しい揺れを体験し、数日は、区内での対応、処置で手一杯でした。しかし、何かをしなければならなかったと考えていたとき、宮城県美里町より東京23区に支援依頼がありました。区役所の派遣募集で、小泉さんと共に手を挙げました。4月17日～22日に10名(内女性2名)で宮城県美里町へ公用車で現地入りしました。罹災証明のサポートで、現地の職員とペアになり、建物被害状況調査の支援活動を行いました。目立った被災は、道路の陥没、電柱が傾く等。調査で立ち寄る家には一人暮らしの高齢者もあり、話を聞いてほしい様子でした。また、役場からの情報があまり入らず困っている状況でした。そんな中、逆に現地の方々が私たちのことを心配してくれたことが、とても嬉しかったそうです。



小泉さんのお話

当初、支援は男性の方が良いのではないかと考えていました。しかし、美里町の体験を踏まえて、女性でも出来る仕事はたくさんあることを知りました。9月23日～30日に女性二人で、防災協定している相馬市へ仮設住宅受付事務の補助、データの整理(福島県庁に提出する書類作成のサポート)を行いました。

区役所の職員は、上記の罹災証明事務、家屋調査の他、被災自治体業務の支援、支援救援物資の運搬、清掃作業を行っています。また、区の保健師は被災者の健康管理のために出向されておられます。

この記事は、2011年11月2日にインタビューしたものです。地震発生当初から「何かせずにはおられなかった」との思いを持たれ、1年経った今もその気持ちをもちながら、区役所の職員は支援を続けていることが伺えます。私たちも“できること”に協力して参りたいと思います。

(4地区 江川明美 18地区 鶴田晴久
佐野地区 木内信雄 東栗原地区 北村信也 記)

ふれあいポリス登場

あなたのお宅には、あの電話がかかってきましたか？ 振り込め詐欺被害増加のなかで、区内4署(千住、西新井、綾瀬、竹の塚)警察署に特設された1組2名の「ふれあいポリス」8名が活動を始めています。刑事分野での振り込め詐欺被害防止、自転車窃盗防止、一人暮らし高齢者への支援活

動、孤独死発生による諸問題の解決、行政と地域包括支援センターとの協働など、幅広い活動が期待されています。「何事か発生した時、ご一報下されば、参上いたします」とのことでした。

(6地区 森春枝 記)



西新井第一小4年 三枝孝輔 作



足立区立第九中学校

中学生俳句コーナー

稲刈で とんぼ発見 ほうそくに

一年 内山史帆里

澄んだ空 見渡す限りの 金の稲

一年 野本 彩佳

コンバイン 稲を刈るため 出勤だ

一年 内木 裕也

黄金の 風に揺れる 赤とんぼ

一年 小山 侑香

稲刈を 終えて 噛みしむ 米の味

一年 木村 太賀

足立区は活動記録提出 100% 継続中です

震災で犠牲になった方々への鎮魂と復興の願いを込めて、「千手の絆キャンドルプロジェクト」が行われました。それぞれの祈りの手の中から放たれた光は、優しく会場を包みました。黙祷から始まり、ミニコンサートが開催され、足立区長からのメッセージもいただきました。多くの方の東北への復興の願いは、きっと天にも届いたことでしょう。祈りのキャンドルには、「みんなの心に灯がとまりますように」「みんなで手をつなごう」「これからが日本の底力」「一緒にがんばろう」といったメッセージが添えられていました。

“被災された方は、1人ではありません。みんながついています”という強いメッセージは、これからも震災を忘れず、東北を応援し続けたいというひとつの証であったと思います。

強い風にも負けず、ゆらゆらと揺れる小さな光。それを包む手は、優しく温かく、そしていつまでも包み続ける強い手でありたいものです。(10地区 川島恵美子 記)



ぶらり足立 シリーズ4

舎人公園



昭和56年に開園された都立舎人公園は、区内最大で東京ドーム約13個分の総合公園です。

公園は東と西のエリアにわけられ、西側にはテニスコート、陸上競技場、野球場等があり、東

側にはキャンプ場、バーベキュー広場、噴水と浮球の池があります。樹木数は7000本以上、このうちサクラは約1000本あり「舎人の千本桜」として知られています。

四季折々の自然あふれる公園は、散策や野鳥観察、青空の下でのピクニックにもぴったりです。是非、お越しください。

※日暮里・舎人ライナー「舎人公園」駅 下車すぐ
(14地区 阿部美代子 記)

宝を大切に育てます

平成20年4月に赴任時、私に「皆様が活動しやすい環境づくりのお手伝い」が果たしてできるのか不安で一杯でした。

そのような中、委員の皆様にはいつも暖かいご指導をいただきました。「常に相手に寄り添って傾聴する姿勢」「いつも地域のことを考える熱い心意気」…etc、本当にたくさんのことを学ばせていただきました。私にとって一つひとつが大切な「宝」となっています。お預かりした「宝」を新たな部署で立派に育てていきたいと思っています。4年間の在任中、大変お世話になりました。ありがとうございます。

前 福祉管理課 民生係主査

現 環境政策課 管理係主査 田中幸一郎

よろしくお願いします

入区した平成8年から4年間、西部福祉事務所でケースワーカーをしておりましたが、今回久しぶりに福祉の仕事に就きました。人との「絆」を大切に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

前 区民課 調整係主査

現 福祉管理課 民生係主査 飯島暁

わが家は、綾瀬川のほとりにあります。毎日、綾瀬川を見て生活しています。ご存じの通り一時は、日本一の悪名高い川でした。しかし、一昔前の黒いドブ川の時でさえ、光輝く一瞬があったのです。高速道路の下から昇る朝日が川面に反射してキラキラと輝く一瞬です。

世の中の動きが一年一年早いなあ！と感じる年齢になり、何げない一瞬の出来事に「ホッ」と一息つけるような、そんな『さくら』であって欲しいなあ！と朝日に輝く綾瀬川を見つめながら思いました。

(17地区 金子みどり 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校へ順番にお願いしています。また、皆様からの原稿も募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)次号発行予定日11月1日
なお、原稿に関しては紙面の都合がございます 事前に地区広報委員にご相談下さい。

部会長
宮本勝男

副部会長
川島恵美子

書記
渡邊照美

会計
池田信江

編集
森春枝

校正
秋本雅信

レイアウト
数下奈穂美

北村信也

編集委員
鶴田晴久

木内信一

加藤宏己

松島勝子

阿部美代子

千葉祐子

金子みどり

校正委員
江川明美

栗野昌子

河邊セツ

井上みよ子

梶宏次

鈴木静江

関根恵子

北川富美子

小島千恵子

栗原和子